

# 景況レポ

4月分

情報連絡員 80名

## DI値は5カ月ぶりに -60台に回復

～非製造業は2カ月連続で上昇～

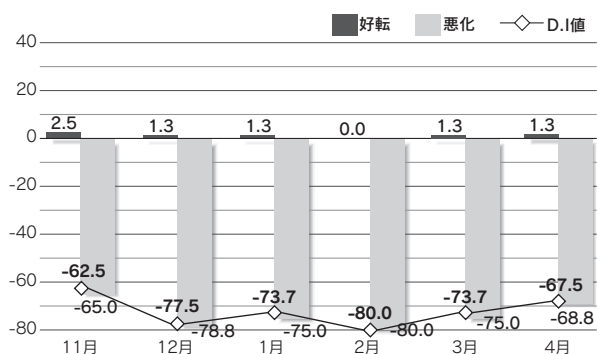
### 景気概況

4月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが1.3%（前月調査1.3%）、「悪化」が68.8%（同75.0%）で、業界全体のDI値は-67.5となり、前月調査と比較し6.2ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-75.0で前月調査（-75.0）と同水準となった。また、非製造業全体としてのDI値は-62.5で前月調査（-72.9）に比べ10.4ポイント上回った。

（回答数：80名 回答率：100%）

業界全体好転悪化割合 [前年比/同月比]



※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員	【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。
製造業							
非製造業							

### 業界の声

- 味噌醤油製造** 3月分の出荷量は、前年同月比で味噌が81.3%、醤油が88.4%と大きな落ち込みとなった。
- 豆腐製造** 取引先スーパーの売上は依然低迷し、売上増加策として安売りで買い物客を呼び込む方法を採用しており、その影響から商品価格が安値傾向になっている。
- 清酒製造** 3月分の清酒出荷量は1,954klで、前年同月比93.2%で推移した。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比で112.8%、純米酒が95.6%、本醸造酒が93.2%、レギュラー酒が91.6%という状況になっている。
- 繊維・同製品** 東京では「フォーエバー21」などのブランドの盛況が伝えられているが、それらは100%海外生産であるため国内生産の状況改善には貢献しない。一部SPA業態が実需期を迎え発注を活発化しているが、その影響は限定的であり全体の受注改善への影響はほとんどない。
- 木材・木製品** 市況は相変わらず低迷状態が続く、製品価格も弱含みで推移し、特に柱材の不振が続いている。
- 窯業・土石** 2月～4月の3カ月間の出荷数量の累計は、前年比75%となった。本荘由利地区では特に落ち込みが激しく前年比65%となったが、3月末に協同組合を設立し収益改善等で期待している。
- 自動車販売** 4月の新車販売台数は、登録自動車が1,617台（前年同月比80.8%）、軽自動車が1,733台（同93.4%）で、合計3,350台（同86.9%）で推移した。
- 石油製品** ガソリン1ℓ当たり113円で前月比4円の引き上げ、軽油は1ℓ当たり97円で前月比2円の引き上げとなっている。灯油（配達込み）は、18ℓ 宅配で1,130円で前月比8円の引き上げとなった。ガソリンの仕切価格は毎週上昇しているが、4月オープンした店舗が1ℓ 99円で販売し市況が全体として下がり、マージン確保が厳しい状況である。
- 商店街** 仕入原材料等の値上がりりと一般消費の買い控えにより収益が圧迫されている。また、街区内のスタンドの閉店により車の流れが減少した。ただ、身の回り品、家電、酒類に若干上向きも見られ、今後、定額給付金の支給開始に期待したい。[秋田市]  
低価格商品の動きは多少見られるものの、それ以外は全くと言って良いほど動きがない状況である。 [大館市]
- 一般建築** 不況回復の呼び水となる公共工事がまだ地方まで回って来ず、加えて民間の全業種も不況となっていることから、受注は減少し資金繰りも厳しい状況である。
- トラック** 貨物量の落ち込みにより、これまで手がけていなかった新たな輸送品目に進出する事業者も出てきており、更に競争の激化が懸念される。土・日・祭日の乗用車の高速道路料金割引により高速道が混み合い、営業トラックは走行時間・休憩時間の遵守などの関係から更に大変な状況となっている。